第６回　区民協働のあり方検討会議

議事概要

≪日時・場所≫

　１　日時　　平成30年１月23日（木）　午後６時30分～午後８時20分

　２　場所　　ココネリ３階　区民・産業プラザ　研修室５

≪次第≫

　１　開会

　２　案件

（１）　区民参加と協働のグランドデザイン（素案）について

　（２）　区民参加と協働のシンポジウムについて

≪配付資料≫

　１　区民協働のあり方検討会議　委員名簿・座席表　　　　　　…　資料１

２　グランドデザイン構想（素案）　　　　　　　　　　　　　…　資料２

３　シンポジウム

「（仮）区民参加と協働の区政実現に向けて」（案）　…　資料３

４　区民協働のあり方検討会議報告書　　　　　　　　　　　　…　参考１

≪出席委員（10名）≫

　　佐藤真久委員、加藤政春委員、武田康宏委員、高原洋子委員、尾原亮子委員、

三谷ますみ委員、村木善郎委員、吉田美穂子委員、美玉典子委員、田中一宏委員

≪欠席委員（１名）≫

　　広石拓司委員

≪区出席者≫

専門調査員、地域文化部長、地域振興課長、協働推進課長

≪事務局≫

　　地域文化部 協働推進課

≪傍聴者≫

　０名

≪議事概要≫

１　開会

　　■座長

　　・第６回区民協働のあり方検討会議を開催する。

２　案件

（１）区民参加と協働のグランドデザイン（素案）について

■事務局

・区民協働のあり方検討会議の内容を踏まえて、報告書を作成した。

平成29年12月に策定した、グランドデザイン構想（素案）の区民参加と協働のグランドデザインは、区民協働のあり方検討会議や報告書の内容を踏まえ、作成したものである。

－グランドデザイン構想（素案）の説明

■座長

　　・グランドデザイン構想（素案）の区民参加と協働のグランドデザインの内容は、多くの部分で、区民協働のあり方検討会議や報告書の内容が反映されていると感じた。

　　・中でも以下のことが特徴的であると感じた。

・一つ目は、地域や組織の課題をそれぞれの団体の強みと弱みを生かした課題解決。

・二つ目は、町会・自治会を中心とする「地縁に基づく互助」は、有事の際に大きな力を発揮する。

・三つ目は、区が取り組む、４つの方向性については、「区民や団体同士の信頼関係の醸成」「区もともに考え、行動する仕組みづくり」という点が良いと感じた。

・区民参加と協働のグランドデザインについて、この場で意見交換を行いたい。

■F委員

　　・区民参加と協働のグランドデザインにかかれている内容を具体的にすることは難しいと感じた。

　　・「区民と区が一緒に手探りで進めていく」という表現は、手探りでやって終わり、終了というように、結果につながらないということにならなければ良いと感じた。

　　■事務局

　　・やることそのものに価値を置くのではなく、ＰＤＣＡサイクルのようにやることを振り返り、悪かったことを改善し、さらに高めていくことが大事だと思う。

　　■A委員

　　・区が主導だった従来に比べ、地域の課題が複雑化している中で、課題を改めて捉えなおして、区も手探りという表現は、良いと感じる。

　　■地域文化部長

　　・区としてもこの部分は重要視している。正解を導き出すことは難しいが、チャレンジするという気持ちを込めて、「手探り」という表現を使っている。

　　■I委員

・P.20-21に書かれているそれぞれの事業は、行っている年数が異なる。こども食堂は最近、地区祭は、何十年も行っている。図の中で、奥行きが出れば良いと感じた。

■C委員

・数十年続いている地区祭はとても良いこと。町会と区の「協働」を感じる。

・街かどケアカフェも最初はかなり大変だった。区との協働により、時間をかけてつくることができた。

■A委員

・P.20-21は、区内地図の間に余白がある。ここは新たな活動の発掘を生み出すのではないか。

■J委員

・地域づくりは、プロセス評価がすごく大事。地域は時間がかかる。目には見える評価指標・目に見えない評価指標があるが、量的・質的な評価指標をしっかり持つことが大切である。

■事務局

・区の補助金が代表例であるが、公金を出すにあたり、区民にどんな効果があるのか説明する際、プロセスの評価よりは、目に見える結果を出してしまうことがある。ここは、変えていかなければならないと感じている。

■A委員

・アウトプットとアウトカムがあるように、従来の目に見える評価だけではなく、アウトカム、社会的インパクト・自立発展性、受益者の満足度、波及効果での評価も必要である。

■G委員

・こども食堂は、活動自体について否定しないが、30年後はもっといい形になっていてほしい。

■A委員

・P.20-21に書かれていることすべてが何十年後も「協働」という形で続くのではなく、また新たな協働の形もあるのではないか。

■E委員

・「手探り」という表現。区民の方がとらえ方を間違えないでほしいなと感じた。

・グランドデザイン構想（素案）であるが、一般の方が見たときにどこまで理解してもらえるか不安である。

■H委員

・区として、手探りの方向性の工夫がほしい。また、信頼のない人にとっての「手探り」は逃げている感を持つ人もいるのではないか。

■G委員

・区民と区が一緒に手探り進めていく、という文章は、手探りという言葉をとったときに、区民と区が進めていくとなると、区民としては、不安に思うのではないか。手探りという言葉があることによって、区も迷っているんだ。区民も区も一緒に考えてくれるんだという捉え方ができる。手探りという言葉に違和感はない。

■A委員

・手探りは、強調しても良い表現である。

■D委員

・読んでもらいやすい冊子にするために、各グランドデザインで、文字のフォントに違いがある。文字数にも違いがある。

・手探りは、強調してもいい表現であると思う。

■K委員

・両開きのデザインに感心したが、インデックスをつけるなどさらに工夫できることもあるかと感じる。

（２）　区民参加と協働のシンポジウムについて

■事務局

－資料３　シンポジウム「（仮）区民参加と協働の区政実現に向けて」（案）説明

・区民協働のあり方検討会議がまとめた報告書の内容を、当会議の委員から、区民に発信するとともに、「暮らし」・「都市」のグランドデザインが目指す将来像の実現に向け、欠かすことができない「区民参加と協働」を、区民と区がともに考える機会とするため、シンポジウムを開催する。

■座長

・グランドデザインの説明に５分は短いのではないか。

・参加人数150名は、どのような区民を想定しているのか。区管理職をはじめとした区職員や練馬地域活動フェスティバルに参加する団体の方にも周知していただきたい。

■事務局

・グランドデザインは、事務局から説明する。時間は、改めて調整する。

・参加は、日頃地域で活動されている区民を想定している。もちろん区職員もできる限り参加する予定である。

－　パネリストの選出

■事務局

・今回で区民協働のあり方検討会議は、終了する。次回は、平成30年３月22日（木）のシンポジウムを予定している。パネリストとして登壇していただく方には、別途連絡し、当日の調整を行う。

■座長

・以上で、第６回区民協働のあり方検討会議を終了する。